

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2014 年 2 月

## ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2 は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに 68 の規格を発行し、現在、17 のプロジェクト（規格開発）が進行中である。SC2 傘下で活動中の作業部会（WG）を表.1 に示す。なお、WG6 及び WG8 は、SC9 国内委員会が担当しているので、本稿では取り上げない。

表.1 TC61/SC2 の WG

WG	幹事国	名称
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	耐衝撃性
4	アメリカ	動的力学特性
5	イギリス	温度依存性
6	ドイツ	試験片寸法
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	アメリカ	データの標記方法

\*SC2 の幹事国：スペイン

2013 年 9 月 9 日～9 月 13 日に中国の蘇州にて第 62 回 TC61 国際会議（年次大会）が開催され、SC2 関係では各 WG の会議及び SC2 全体会議が開催された。本稿では、国際会議での議論を中心に TC61/SC2 の最近の動向について WG 別に概要を報告する。

### 1. 静的力学特性（WG 1）

**ISO 899-1/DAmD 1**（クリープ特性の求め方—引張クリープ／追補）：本追補はエージングの影響を説明したものである。年次会議にて次段階（FDAmD）に進めることが承認された。

**ISO 899-2/DAmD 1**（クリープ特性の求め方—曲げクリープ／追補）：審議途中で米国からのコメントを加味して FDAmD に進めることが承認された。

**ISO 178**（曲げ試験）追補：2010 発行の本規格には、規定の変位計の使用が義務付けられているが、当該変位計を調達できない場合がある。そこで、5 年間の猶予期間を設ける必要があるとのコメントが米国から出された。このコメントに対して 6 ヶ国の指示があり、追補作成の作業を開始することとなった。

### 2. 硬度及び表面特性（WG 2）

**WD 19278**（計装化押し込み硬さの試験方法）：日本提案である本提案は、NP 投票を行った結果、開発テーマとして認められた。蘇州会議では、投票時に寄せられたコメント等について審議された。そ

の結果、RRT（ラウンドロビンテスト）を行う必要があるとの結論に達した。今後の1年で日本から各国に依頼してRRTを行うこととした。

**DIS 17541**（スクラッチ誘起損傷の定量評価）：CD2投票が行われ、日本及びドイツが反対、また多くのコメントが寄せられた。日本提案ISO 19252:2008（スクラッチ特性の求め方）との類似性も問題と考えられる。その後、DIS投票が行われたが、蘇州会議では投票中とのことで、議論はされなかった。日本は、定量的な評価をするにはデータが不足ということで反対投票を行った。

### 3. 耐衝撃性（WG 3）

**CD 13802**（振り子式衝撃試験機の検証／改正）：CD投票では、日本はドラフトの完成度が低いとして反対投票を行った。蘇州会議では、投票時のコメントについて議論した結果、コメントを反映させたドラフトを作成し、DIS投票に進めることとなった。

この議論の時、「計装化振り子式試験機の校正のためのガイドライン」が必要ではないかとの意見が出された。この議論の結果は、次の通り。①ガイドライン作成は、ISO 13802改正終了後に行う。②ガイドライン作成のPLは日本が担当する意思あり。

### 4. 動的機械特性（WG 4）

蘇州会議でWG4の会議は開催されなかった。

**CD 6721-10**（動的機械特性の試験方法－振動レオメータによる複素せん断速度）：本プロジェクトは、SC5/WG9で審議されているが、SC2/WG4はリエゾンとして関与している。CD投票は賛成多数で承認された。日本及びWG4コンビナーがコメントを提出した。コメントを反映してドラフトを修正し、DIS投票が行われる予定である。

### 5. 温度依存特性（WG 5）

**DIS 306**（ピカット軟化温度の測定／改正）：測定温度を高温側に延長することを目的に、日本より提案した改正案である。FDIS投票にて承認され、ISが発行された。

**ISO 75-3**（荷重たわみ温度の求め方：高強度熱硬化性積層版及び長繊維強化プラスチック）**改正**：当WGのコンビナーは、本規格に対しても高温への延長を適用したいとの意向を持っており、蘇州会議にて各国にRRT参加の呼びかけがあった。

### 6. 疲労及び破壊靱性（WG 7）

**WD 18485**（接着された柔軟なラミネート材の剥離試験による破壊じん靱の求め方）：イタリアの本提案は、NP投票が行われ、賛成多数でテーマは承認された。投票時に寄せられたコメントに対応して、CD案が作成され、CD投票が行われる予定である。

以上